



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



広報部長に泉 浩二神父

新年度を新しい体制でスタート

教区司祭の人事異動に伴い司祭・助祭たちの役職・担当を整理した教区本部では、今年度の主な担当を次のように発表した。(敬称略)

▼司祭評議会

会長 郡山健次郎、副会長 小川靖忠、事務局 長 寝占敦之、評議員 盛 克志、石田 望(以上、レデンプトール会)、永山幸弘、牧山田一、泉 浩二(以上、司教任命)、サンタマリア(ザベリオ会)、松永正男(コンベンツアル会)

▼教区顧問

盛 克志、泉 浩二、小川靖忠、竹山 昭、小隈憲士、(書記 寝占敦之)

▼「宗教法人カトリック鹿兒島司教区」責任役員会

代表役員 教区長、責任役員 田原 章、竹山 昭、小隈憲士、小川靖忠 (書記 寝占敦之)

▼経済問題評議会

会長 教区長、副会長 総代理、評議員 小隈憲士、盛 克志(以上、教区顧問)、永山幸弘(奄美地区長)、寝占敦之(教区会計)、丸野六雄(教区司祭)、信徒委員(二人)

▼教区本部

会計部 寝占敦之(部長)
広報部 泉 浩二(部長)

▼諸委員会

(1)教区典礼委員会
泉 浩二、福崎英雄、桃

韓国人神学生の受入などを審議

三月開催の教区顧問会

三月五日(水)教区本部で教区顧問会が開催された。現在、教区顧問会は郡山健次郎司教、盛 克志神父、泉 浩二神父、小川靖忠神父、竹山昭神父、小隈憲士神父、それに書記の寝占敦之神父を加えた七人で構成されている。この日は七人全員参加で議事が進行された。

議題の一は現在、教区本部で預かっている韓国人ベネディクトさん(本名バク・ジンヤン 四十三歳)、ヨハネさん(本名イ・ジン)については、支出で大きな割合を占める人件費について、「七十五歳以上の司祭の給料制見直し」や人事異動に伴い新しく幼稚園勤務となる司祭についての報告が会計担当から行われた。また神学生養成費についても、現在六人の神学生がいること、日本カトリック

三月五日(水)教区本部で教区顧問会が開催された。現在、教区顧問会は郡山健次郎司教、盛 克志神父、泉 浩二神父、小川靖忠神父、竹山昭神父、小隈憲士神父、それに書記の寝占敦之神父を加えた七人で構成されている。この日は七人全員参加で議事が進行された。

議題の一は現在、教区本部で預かっている韓国人ベネディクトさん(本名バク・ジンヤン 四十三歳)、ヨハネさん(本名イ・ジン)については、支出で大きな割合を占める人件費について、「七十五歳以上の司祭の給料制見直し」や人事異動に伴い新しく幼稚園勤務となる司祭についての報告が会計担当から行われた。また神学生養成費についても、現在六人の神学生がいること、日本カトリック

神学生養成費等への協力を要請

二〇一四年度予算編成で教区会計担当

「教区財政正常化献金廃止」を宣言した臨時経済問題評議会(二月二十六日開催)では、二〇一四年度の主な支出

支出や神学生養成費、教区会計の優先課題についても検討を行った。二〇一四年度の主な支出

新風

二十代の頃、少し高い山に登ったことがあります。その頃から「信仰の旅は登山に似ている」と思うようになりました。

例えば、エベレストに登るとします。その場合、必ずベースキャンプを定め、失敗しても、いつでもそこに帰ることができるように準備します。信仰の旅もそれに似ています。私たちが今まで多くのみ言葉と出会ってきた。皆さんにとってベスキャンプになりうる「み言葉」とは何でしょうか。私はそれを聞いてみたいのです。

私にとつては、やはりマタイ九章の「野の花を見なさい」という言葉のようです。苦しい時、無気力の時この言葉が脳裏に浮かびます。皆さん

信仰のベスキャンプ

歩みを進めます。そのエベレストの頂上は神との完全なる出会いの場、「神の国」と言える場所です。ベスキャンプを出発した私たちはルート

歩みを進めます。そのエベレストの頂上は神との完全なる出会いの場、「神の国」と言える場所です。ベスキャンプを出発した私たちはルート

「私について来たい者は、自分を捨て」という言葉だと思っています。この言葉をいつか真剣に見詰め、神の恵みを受けながら、そのみ言葉を真に生きたいと願った時、夢に見たエベレストの頂上に至ることができ

ののだと信じています。
(教区本部・寝占敦之)

の結果、今後二人の神学生候補を多くの司祭、信徒に紹介する機会を設け、彼らの人となりを見極めた上で再度、顧問会で決断する。議題の二は「太陽光発電」についてで、教区会計と小教区会計が逼迫する中、その打開策の一つとして幾つかの教会に「太陽光発電」のシステムを導入したらどうかを審議された。審議の結果、国からの買電価格が保証される今年度中にエントリリーだけでも行うこととし、今後、宗教法人責任者役員会、経済問題評議会等で十分に審議し判断することとした。

司祭の消息

▼内野洋平神父(コンベンツアル会・東長崎主任)は大笠利主任

▼久保芳一神父(コンベンツアル会・大笠利主任)は、古田町助任

▼J・レヒナ神父(レデンプトール会・母間修道院)は、谷山修道院

▼H・ハヌス神父(レデンプトール会・和泊主任司祭)は母間修道院・協力

▼大松正弘神父(レデンプトール会・母間主任)は現職のまま和泊主任を兼務

教区内各地で卒園式(≪派遣式?)

カトリック幼稚園

鹿兒島教区には二十一のカトリック幼稚園があります。三月の半ば、そのほとんどの園で二〇一三年度の卒園式が行われました。その一つ鹿兒島市の聖母幼稚園では三十四人の子どもたちが巣立ちました。卒園の大きな喜びと少しの寂しさ。小学校入学の大きな喜びと少しの不安。子どもたちとのかかわりを思い出しながらの卒園証書授与となりました。子

どもたちはそれぞれに大きな声で「はい」の返事と「ありがとうございます」の声を。今思うと幼稚園での手を合わせての祈り、歌。見えないけどいつも一緒にいてくださる神さまのこと。いつも見守っている大好きなマリアさまのこと。

それらが子どもたちの心に体験を通して残り、それを生きていく子どもたち。まさに一人ひとりの福音宣教(種まき)への派遣のように感じました。いつも一緒にいてくださる方がいる。その方に信頼しながらの毎日。いつかそのことを感じ、思い出してもらおうことを期待したいものです。

(鹿兒島教区カトリック幼稚園協会会長 泉浩二)

訃報

▼マリアさん

ティエン神父(小宿教会主任司祭)の母堂マリア・ニエン・サイ・ルーさんが一月三十一日(金)ファンティエト教区にある自宅で亡くなった。七十五歳だった。マリアさんの葬儀は、ベトナム南部のファンティエト教区の教会でしめやかに執り行われた。

▼栃尾麗子さん

栃尾泰英神父(大熊教会主任)の母堂・麗子さん(三重県熊野市金山町)が三月二日午前七時に慢性心不全のため逝去した。九十二歳だった。麗子さんの葬儀は三月三日、JA三重南紀葬祭センターにおいて仏式で執り行われた。

医療功労賞中央表彰

聖心教会所属

郡山昌太郎医師

奄美市の眼科医・郡山昌太郎さん(七十六歳)が、長年にわたり地域医療に貢献したことで「第四十二回



「週日のミサと祈りを大切にしてください」新任地へ向かうアントニオ神父

新任地へ向かうアントニオ神父

春は出会いと分かかれのとき。三月十六日(日)ザビエル教会でもちよつとした別れがあった。

この日、主日のミサを司式した同教会助任司祭のアントニオ鄭法鐘神父は四月一日付けで種子島教会主任司祭となることから、この日がザビエル教会での最後のミサだった。

諏訪勝郎さん大神へ

奄美に移り住んで僅か一年、新聞社に勤務していた諏訪勝郎さんが四月から教区大神学生として日本カトリック神学院に進学し、司祭への道を歩むこととなった。諏訪さんは愛知県出身で大阪芸術大学を卒業。ポルトガル留学経験があるほか、長年、社会で働いた経歴を持つ。四十七歳。



鴨池教会で働き四月から鹿屋教会主任の辞令を受けたドミンゴ宋診旭神父同様、司祭叙階から一年での主任司祭という人事、しかもこれまでとは違う一人での活動、やる気と不安の入り交じる出発に違いない。ミサの説教で、別れの言葉を述べたアントニオ神父は、集まった二百五十人余の信者にこれまでの礼を述べたほか、今後大切にしてい

欲しいこととして次の二つを送った。「主日だけでなく、週日のミサも大切に、時には参列して欲しい」「信仰を強めるために祈りが大切。もつと祈る教会になって欲しい」司祭への道を求めて鹿兒島の門を叩いて誕生した韓国人司祭が残した置き土産は熱い言葉だった。

医療功労賞」の中央表彰を受けた。郡山昌太郎さん(聖心教会)は鹿兒島教区長の令兄で広島大学医学部を卒業後、一九七六年から奄美群島唯一の眼科医として県立大島病院に勤務し、一九八〇年に名瀬に郡山眼科を開業、和光園での出張診療などを続けて来たという。

諏訪勝郎

このたびの召命、我が事ながらいまだ信じられませんが、神さまのご計画がいかに人間には計り知れないものかを感じずにはいられません。入学の日が目前に迫る中、おそればかりが募っているというのが正直なところ。まず合格する気遣いはないと踏んでの受験でしたから。奄美に来て一年にもならない者が、奄美からの、鹿兒島教区の神学生になることなど、本人をはじめいつたい誰が考えるでしょう。現実、神さまのなさることは計り知れないと思うのです。

奄美で学ばせて頂いたのは「ゆるし」。「主の祈り」の「われらがゆるす」とく、われらの罪をゆるしたまえ。戦前から戦後のカトリック迫害の中、信仰を守り続けた奄美の人々の、「主の祈り」の「ゆるし」に生きて来られた姿に、キ

祈りの人

川畑久子さんを偲ぶ

三月十九日(水)、カタリナ川畑久子さんは鹿兒島市内の病院で人生を神さまのみ手に委ねました。彼女は一九三五年大島郡徳之島町に生まれ、人間の生き方を求めてカトリック教会の門を叩き、レデンブートル会の故ミタマヤ神父に出会い、一九五八年にミ

タマヤ神父から岡前教会で洗礼の恵みを頂きました。その後、健康には恵まれませんでしたが、祈りの人として自分自身の信仰を大切にし一九九〇年代には、徳之島の教会でカテキスタとしてレデンブートル会の神父たちと一緒に、多くの人々を信仰の道に導くために、徳之島教会のために奉仕しました。(レデンブートル宣教修道女会・澤ヤエ子)

鈴木神父のやさしいみこば

聖書における日付の矛盾



実は、共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)とヨハネ福音書では最後の晩餐が行われた日に一日のズレがあります。まずはこのことを確認してみましょう。

共観福音書では除酵祭の第一日が最後の晩餐なのですが(マタイ26・17、マルコ14・12、ルカ22・7)、ヨハネ福音書では過越祭の当日が最後の晩餐となっています(ヨハネ13・1)。また、イエス様の十字架架刑は共観福音書では除酵祭の第一日目であり(マタイ

27・1、マルコ15・1、ルカ22・66)、ヨハネ福音書では過越祭当日の午後となっている(ヨハネ18・28)。これらに対して金曜日(ヨハネ18・28)にイエス様の十字架架刑が執行されたことと日曜日に復活されたことは全福音書で共通しています。また、過越祭が二サンの月の十四日であることを忘れてはなりません。ここで留意しなければならぬのは日付が変わる時です。現代は夜中の十二時で曜日が変わりますが、ユダヤの考え方は日没(夕方十八時)から次

の日の日没(夕方十八時)までを一日と考えることから、日没によって曜日が変わるようになります。このことを下の表で確認してください。

【共観福音書の日付】		除酵祭の一日目		安息日		復活した日	
(14日:木曜日)		(15日:金曜日)		(16日:土曜日)		(17日:日曜日)	
13夜	14夜	14夜	15夜	15夜	16夜	16夜	17夜
過越祭		過越の食事		過越の食事		過越の食事	
最後の晩餐		最後の晩餐		最後の晩餐		最後の晩餐	
十字架架刑		十字架架刑		十字架架刑		十字架架刑	

【ヨハネ福音書の日付】		安息日(神聖の日)		復活した日	
(14日:金曜日)		(15日:土曜日)		(16日:日曜日)	
13夜	14夜	14夜	15夜	15夜	16夜
過越祭		過越の食事		過越の食事	
最後の晩餐		最後の晩餐		最後の晩餐	
十字架架刑		十字架架刑		十字架架刑	

次に、この一日のズレに込められた福音記者の意図を考えてみましょう。共観福音書では、最後の晩餐こそが本場の過越の食事、即ち、神との新しい契約の締結のとき、というところが表現されています。これに對して、ヨハネ福音書では過越祭の時に屠られる小羊として私たちの贖いのためにイエス様が十字架につけられた、ということを表現しているのです。聖書を注意深く読むと、福音書間で記

おっちゃんたちを笑顔にしたくて!

ザビエル教会夜回り会が活動開始から十年

「福音の光を社会、特に困っている人たちに届けた

い」とザビエル教会が路上生活者とのかわりを持ち



心を込めて食事を準備するメンバーたち

始めたのが二〇〇四年二月のこと。当時、鹿児島市内でも増加し続けていたホームレスや路上生活者たちが、教会に一日の宿や食事を求めて来ていたことが、信徒たちに社会とのかわりに目を向けさせた。「よく学習する」と評されていたザビエル教会で「足りない」とされたのが、社会

のかかわり。そんな反省に立った有志たちが実行に移したのが、毎週土曜日の夜に実施する「夜回り会」となった。午後七時にザビエル公園で行われる「炊き出し」は、年五十二回、これまでに五百回を超える。一回の炊き出しに集まってくる人たちは二十人あまり、中には常連五、六人と新人二、四人の姿があるというから、なかなか苦しい生活から抜け出せないでいる現状が理解できる。夜回り会の活動は炊き出しだけではない。二〇〇五年夏には教会横にシャワー

室を設置させ、毎週火曜日に路上生活者たちに利用してもらおう活動も開始した。シャワー利用に教会を訪れる人の数は一回平均八人余、身なりから銭湯にも入れてもらえない、就職のための面接にも行けないという人たちのまきに救いとなつていく。そんなザビエル教会夜回り会の活動も十年を過ぎ、会の活動に賛同する協力者たちから米や野菜の寄付が届けられるようになっていく。会の訴えに行政も動き彼らの健康を気遣ってレントゲン車を手配してくれるようもなった。土曜日の夕方になるとザビエル教会集会所からは、夜回り会のメンバーたちが用意する食事の匂いとメンバーたちの楽しそうな声が溢れてくる。ある日も「一人

ゼローム神父の胸像建立

神父の功績を伝えたいと奄美の信徒たち

乳児院や養護施設、知的障害児施設など福祉施設の設立に尽力し「奄美福祉の父」と称されたロンベツアル会のL・ゼローム神父(二〇〇三年三月帰天)の胸像が信徒たちの働きで古田町教会敷地内に建立され、その除幕式が三月一日(日)にあった。

神父没後十年を機に「ゼローム神父の胸像建立を」と動き出したのは、奄美の信徒たち。栗栖二郎さんを委員長に「ゼローム神父胸像建立実行委員会」を設置し、奄美の各教会に寄付を申し入れて実現させた。

郡山司教によって祝別されたゼローム神父の胸像はプロンズ製で高さは台座を含め約二メートル、また神父の功績を記した石碑



は、幅・高さともに一メートルありのりつばなもの。

除幕式で挨拶した郡山司教は「ゼローム神父は偉大な宣教師だった。私にとっても忘れられない人」をその在りし日の姿を偲んだ。除幕式後は、記念ミサがさげられ、多くの信徒がゼローム神父の残してくれた遺産を後世に引き継ぐことを誓い合った。

司教執務室便り

復活の証人になろう

ロザリオの栄の神秘の二連目は主の昇天。祈願文は「私たちが復活の証人として生きることができるよう聖母の取り次ぎによって願いまししょう」となっている。どうしたら復活の証人になれるのか。現代の私たちにあって、弟子たちのような復活の証人になることはできない。しかし、復活の主を信じる者らしい生き方ならできる。

復活を信じるなら希望を失うことはない。周りの状況がどんなに悲観的であっても光を信じて祈ることならできる。そして、誰かのせいにするのではなく、見通しが立つまで祈りながら待つことができるなら復活を信じている者らしいと言える。また、身近な人々と心をつなげようとする努力することも復活の証人らしい。「私は世の終わりにまでいつもあなたと共にいる」(マタイ28・20)と約束されたのは復活の主だからである。

大震災四年目の三月十一日、被災地の大槌を訪ねた。津波に流された住宅地には工事用の新しい道路が敷かれ、土地のかさ上げ工事が進められていた。その隣には、津

波によって破壊された役場の建物が無残な姿のまま残され、復興に向けた取り組みを静かに見守っているようでも印象に残った。一方、仮設住宅の一角では、ご婦人たちが小物工房を立ち上げて、コースターや帽子のミニチュアづくりを精出していった。注文も多いそうで、被災の辛さを感じさせないほど嬉々として働いている姿にどこかホッとしました。



そんな中で、カリタスジャパンの働きは文字通り地域密着。いまだに被災地を去ることなく、人々の必要にこたえようとしている。児童保育や保育園、どの施設を訪ねても、町の人々は「カリタスさん」と呼んで親しさと感謝の気持ちを深くしておられた。カトリックはおろかカリタスという言葉さえ人々の口に上ることのなかった地でも今や知らない人がいないほどの知名度を得た「カリタスさん」。未曾有の悲劇がもたらした神秘と言える。

ともあれ、復興にめどがつくまで一緒にいたいという日本の教会とカリタス(愛)ジャパンの姿勢こそ復活の証人と言えよう。四旬節も山場を越えた。もうすぐ主の受難。大小さまざまな各自の受難が復活の証人となる機会となるように。

室を設置させ、毎週火曜日に路上生活者たちに利用してもらおう活動も開始した。シャワー利用に教会を訪れる人の数は一回平均八人余、身なりから銭湯にも入れてもらえない、就職のための面接にも行けないという人たちのまきに救いとなつていく。そんなザビエル教会夜回り会の活動も十年を過ぎ、会の活動に賛同する協力者たちから米や野菜の寄付が届けられるようになっていく。会の訴えに行政も動き彼らの健康を気遣ってレントゲン車を手配してくれるようもなった。土曜日の夕方になるとザビエル教会集会所からは、夜回り会のメンバーたちが用意する食事の匂いとメンバーたちの楽しそうな声が溢れてくる。ある日も「一人

**+KABAYAN SEKSIYON+
Panginoon, Ikaw ang Aking Mabuting Pastol**

Sa panahon ng Muling Pagkabuhay, ipinagdiriwang ng Simbahan ang ating Mabuting Pastol na muling nabuhay matapos ilaan ang sarili para sa kanyang kawan.

Sa kontekstong ito, hayaan ang inyong imahinasyon na gunitain ang kapanahunan ng mga sinaunang Kristiyano sa Roma nang ang kanilang pananampalataya ay lubos na sinubok. Si San Pedro at San Pablo ay kapwa nagaalay ng buhay sa pagitan ng mga taong 64 at 67, noong panahon ng pag-uusig ng Emperador Nero. Ang mga Kristiyano ay ipinakain sa mga leon sa Koloseo. Sa medaling salita, ang pagiging Krisitiyano ay nangangailangan ng isang matatag na pananampalataya, kahit hanggang sa kamatayan.

Madalas nagtatago ang mga Kristiyano noong araw; nagkikita sila sa mga catacombs o sementeryo sa ilalim ng lupa upang sumamba at ilibing ang kanilang mga patay. Anong mga larawan ang ipininta ng mga Kristiyanong ito sa haligi ng mga catacombs? Ang pinakamadalas na imahen ay ang larawan ng Mabuting Pastol. Kahit sa panahon nang lubos na paghihirap, naramdaman ng mga Kristiyano ang malapit na presensya ni Hesus. Kaya't masasabi natin (tulad ng mga sinaunang Kristiyano) na Ang Panginoon ang aking Pastol. Ang presensya ni Hesus ang gumagabay sa atin sa kabila ng ating mga takot at paghihirap. Tunay ngang an gating pananampalataya ay ang pinagmumulan ng kapanatagan ng ating kalooban.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

会と催し (4月)

- 1日(火) 学校法人聖マリア学園及び学校法人カトリック大隅学園辞令交付式・教区本部
- 2日(水) 中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
- 5日(土) 宣教学校・教区本部・13時30分
- 6日(日) 四旬節第五主日
- 7日(月) 司祭評議会・教区本部・14時
- 8日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
- 13日(日) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 受難の主日(枝の主日)
- 世界青年の日
- 久保芳一神父叙階記念日(一九七五年)
- 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 17日(木) 聖木曜日(主の晩さん)
- 18日(金) 聖金曜日(主の受難 大斎・小斎)
- 聖地のための献金
- 松森孝郎神父叙階記念日(一九七一年)
- 19日(土) 聖土曜日(復活徹夜祭)
- 復活の主日
- 20日(日) レデンプトール会例会
- 21日(月) アン神父叙階記念日(二〇〇六年)
- 22日(火) マイエル神父命日(一九七八年)
- 25日(金) 復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
- 27日(日) アッシュヤー神父叙階記念日(一九六八年)
- 28日(月) ハンマ神父叙階記念日(一九六三年)
- 29日(火) 奄美例会

【フベナ】 祈りの意向 「聖なる三日間」(復活祭20日)を前に困難に直面している人々が希望を見出すことができ

【祈祷の使徒会】 世界共通・エコロジーと正義 宣教・病者の希望 日本教会・新生活の希望

キリシタンの歴史②③

内村鑑三とキリスト教(一)

溝辺教会主任司祭

坂本 進

一 内村鑑三の信仰―武士道に接ぎ木されたキリスト教
内村の信仰は、武士道とキリスト教を繋げるキリスト教、「武士道に接ぎ木されたキリスト教」と言われています。

文芸

短歌

洗礼式共に幸せ願いつつ神の子として新たなになりぬ
鹿兒島純心 川上 和
ライジヒルソチ風に乗る飛行隊渦まく歓声

俳句

晴れやかに日の丸滑走ソチリンク
鹿兒島純心 川上 和
手を合わせ祈る心のおだやかさ
四句節始まるけふの春景色

アジア青年の祭典 AYD(デジョン大会)に参加しよう

アジアの青年の連帯と信仰を深める「アジア・ユース・デー(AJD)」が今夏(八月十日〜十七日)、韓国はテジョンで開催されることになり、現在参加者を募集している。
AYDはアジア二十八カ国のカトリック教会青年代表約二千人が集い、開催国の文化・社会と教会の取り組みに触れながら典礼、体験学習、文化交流などを図る八日間の集いで、今年で六回目。今回のテーマは「アジアの若者よ、目覚めよ。殉教者の栄光があなたに輝く」で、このテーマを「信仰の原点を思い出すこと」「信仰を再発見すること」「現代社会の証し人として、イエスと共に歩むこと」の三点から深めて行くという。

パン種

誰もが、自分の属する教会に「主任司祭」がいて当たり前と思っています。でも、今の教会のありのままの姿が見えているのでしょうか。「当たり前」ではなくなる日はそう遠くないように思います。

働き手はどこにいる

長いこと皆無だからです。併せて、召命を財政的に支える「神学生養成費」は減る一方です。これでは、「教区」の自立を自分たちの問題として、真剣に考えているとは、とても思えません。
今のところ、教区は外国人の司祭たちの助けを借りて、宣教師の体制を何とか保っています。
比較的若いアジア出身(フィリピン、ベトナム、韓国)の司祭たちも共に働く

これが信徒の生きる道 学習してまます Ⅱ 宣教学校Ⅱ

毎月土曜日の午後には教区本部で学習に精を出すグループがある。グループの名前はちよつと重々しく「宣教学校」。
数年前に「聖アンデレ福音宣教学校」の鹿児島開館に尽力した久保俊弘助祭をリーダーに、数人の信徒が社会で福音宣教するその方法と情熱を学習している。



この日も祈りから始まり、純心で教鞭をとるシスター山内から「信徒としての生きる道」を熱心に学習した。

マリア山荘黙想会

神の導きをいかにして識別し

神と一致できるか

日時: 5月10日(土) 14時~11日(日) 16時まで

指導: アムロス神父(イエズス会)

参加費: 8000円(部分参加も可能)

問合せ: TEL0995 (58) 2994

マリア山荘セミナー

西郷隆盛を学ぶ(第3回)

テーマ: 西郷隆盛とリーダーシップ

日時: 6月29日(日)

(1)記念ミサ(9時30分)

(2)セミナー(11時~16時)

問合せ: TEL0995 (58) 2994